

植物観察会

主催 野川公園緑の愛護ボランティアの会
日時 9月6日(日) 13:00~14:30
10月4日(日) 13:00~14:30
集合 野川公園自然観察センター前
申込 直接会場へ
参加費 無料
問合せ 0422-31-9033

Tシャツからエコ布ぞうり作り

主催 三鷹市ごみ対策課
日時 9月17日(木) 13:00~15:45
場所 リサイクル市民工房
対象 特になし
定員 8名(多数の場合抽選)
申込 往復はがきで9月10日(木)
必着でごみ対策課へ(抽選)
問合せ ごみ対策課 内線 2535

第51回井の頭かんさつ会

主催 井の頭かんさつ会
テーマ「渡りの夏鳥を探そう! 2009秋」
日時 9月27日(日) 9:30~12:00
事前に申込みが必要

編集後記

夏は、暑く、人間の活動はスローダウンですが、植物は、8月は成長が大変早いように感じます。野川の外来植物(オオバタクサやアレチウリ)は、成長の速度を速め、油断をすると一面に繁茂してしまします。負けないように、何とかしたいと思っています。(安達)

参加費 300円
申込み 大原 kapock@parkcity.ne.jp
HP URL http://www.kansatsukai.net
Tシャツからルームシューズ作り
主催 三鷹市ごみ対策課
日時 9月30日(水) 12:30~15:45
場所 リサイクル市民工房
対象 特になし
定員 8名(多数の場合抽選)
申込 往復はがきで9月17日(木)必着
でごみ対策課へ(抽選)
問合せ ごみ対策課 内線 2535

ガーデニング講座

主催 三鷹市市民緑化推進委員会・三鷹市
協力 花と緑のまち三鷹創造協会
日時 10月3日(土) 13:30~15:00
場所 三鷹市農業公園
対象 特になし
定員 30名(多数の場合は抽選)
費用 1500円程度
申込先 詳細は9月20日の広報紙を
ご覧下さい
問合せ 花と緑の三鷹創造協会 45-8351

発行: みたか環境活動推進会議
(愛称 みんなの環境)
連絡先: 三鷹市環境対策課
電話 0422-45-1151 内線 2523・2524
E-mail: kankyo@city.mitaka.tokyo.jp
本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。

身近な雨水の利用

~ 雨水貯留槽の設置 ~

いま市街地のほとんどの家屋、建物に降る雨は樋を通して、またコンクリート・アスファルト舗装の道路や広場の雨水は側溝に集めて、直接下水道に流れ去っています。その土地にしみこむ雨量が少なくなるにつれて、地下水の量が減り、湧水も乏しくなっているのです。

これに対処して、屋根に降った雨水を地下に浸透させる、さらに一歩進めて雨水を直接利用して、身近な場所での「水循環」を復活させようとする事業と活動が進んでいます。

三鷹市では、10年ほど前から雨水浸透ますとともに雨水貯留槽(雨水タンク)の設置事業が行われています。雨水タンクは、雨樋に流れる水を貯留して、鉢植えや庭木の水やり、道路の散水、洗車などの生活用水の一部に利用しようとするものです。

かつて上水道が完備していない時代に、街角に防火用水槽を、また家庭には用水桶を見かけました。水道水の代わりに「タダ」の雨水を利用したむかしの生活の知恵を思い出します。

三鷹市の統計によると、現在までに110件を越える小型のタンクが設置され



たといいます。
8月のはじめ、緑と公園課の大坪さんのご紹介で、野崎の渡辺さん宅の庭に設置された雨水タンクを実見しました。タンクの容量は約200Lで、6年前に設置されたとのことでした。タンクの横に置かれたコンポスト槽、そして軒先のゴーヤ棚。柿の木も植えられたお庭の緑の植栽と併せて、タンクの水をふんだんに利用して地道に身近な環境保全に心がけている様子うかがえました。

地元以降る雨は、地元で利用し、地元の土に返そう。省資源と潤いのある身近な環境作りの視点から、雨水利用をすすめてみませんか。(山口)

< 設備設置の問い合わせ先 >

雨水貯留槽 —— 緑と公園課
雨水浸透ます —— 下水道課

「水」と向き合う

日本無線（株）三鷹製作所

日本無線は、1915年（大正4年）の創業以来、無線通信技術、情報技術をベースに独自の技術を展開し発展してまいりました。無線応用機器メーカーとしての事業活動を通じて、環境（自然）と深く関わりを持っております。今回は、私たち日本無線の製品の中で、特に「水」に関連深いものを紹介させていただきます。

近年、ゲリラ豪雨と呼ばれるような局地的な降雨により、都市部でも大きな被害が出るようになりました。日本無線では1954年、国内で初めて気象レーダーを完成させました。全国各地の気象台や空港で活躍する気象レーダーをはじめ、レーダー雨雪量計、ドップラーレーダーなど、雨(雪)量データの観測・分析に活躍しています。

また、水・河川、ダム等の各種制御システムをはじめ、農業用水、上下水道、水防、水質、環境情報システムなど、生活、産業、社会の基盤を支える水管理システムを開発してきました。

最近では、降雨により発生する土砂災害の監視システムなど、自然災害の大規模被害を回避するためのシステムづくりにも取り組んでいます。

海という舞台では、過酷な気象・海洋条件の中で、船舶の安全航行に貢献する海上通信機器（インマルサット船舶地球



気象レーダー

局装置)や航法装置(船舶レーダー、GPS航法装置)を挙げることができます。また、海洋牧場支援システムは、捕る漁業からつくり育てる漁業(海洋資源の枯渇から循環型)への転換に役立っています。

私たち日本無線の製品は、社会インフラの一つとして、みなさまの生活を影で支え、守っております。

これからも私たちの製品を通じて、地球環境の保全に貢献して行きたいと考えております。

野川クリーン作戦 と 野川祭り

～ 大沢下原商店会が、三鷹市環境活動表彰を受賞～

大沢下原商店会は、今年の3月、三鷹市の環境活動表彰を受賞しました。これは、野川の清掃と野川祭りの実施により、高環境のまちづくりに貢献した功績によるものです。

今年も7月19日(日)、同商店会主催の野川クリーン作戦と野川祭りが実施されました。羽沢小学校、第7中学校の生徒とその保護者、運営スタッフなど約300名が参加しました。午前8時半に古八幡社に集合し、相曽浦橋～御塔坂橋間の歩道を歩き、ゴミを拾いました。その後の「野川祭り」では、スイカ割り、モザイクタイルの工作教室などを楽しみました。この行事は昭和62年から毎年1回行われていて、



開会式の様子

昔は野川をせき止め、船を浮かべたこともあったようです。参加した子供達には、大変いい思い出となったようです。(安達)

市役所の窓：「わたしとマイボトル」

最近、エコバック、マイ箸など環境に配慮できる身近なものを持参している人が増えていますが、わたしは、マイボトルを持参するようになりました。それは、わたし自身水分をたくさん取るからです。今までは、コンビニとかで毎日ペットボトルを2、3本買っており、お金もかなりかかっていました。最初はお金の節約のために始めた水筒持参でしたが、次第にペットボトルの購入本数も1、2本と減らすことができました。また、水筒の良い所は繰り返し使えるため、ゴミを出さなくて済む所です。身近な所から、

Reduce と Reuse を実践することができるのです。そのように知らず知らずのうちに、エコに貢献していたのではないかと思います。

これから、()本格的に夏の季節に入り、熱中症予防のため、水分摂取することも多くなり、ペットボトルを購入する機会が増えると思われます。そこで、身近なエコ実践のため、みなさんもマイボトルを持参する習慣をつけていきませんか！

道路交通課 酒井康史

()注：執筆時期は7月でした。